

漢方成分が食中毒・寄生虫予防に効果！

「漢方成分 ボレイ が、腸管出血性大腸菌 O157 を予防」

【ボレイ（牡蠣）】牡蠣の貝殻を焼成して粉碎した粉で、主成分は炭酸カルシウム。その他、リン酸塩、マグネシウム、アルミニウム、ケイ酸塩、酸化鉄などを含有。

旧農林水産省・食品総合研究所の研究では、「腸管出血性大腸菌・O157」に対して牡蠣を原料とする「牡蠣殻カルシウム」の0.2%水溶液に浸潤させると、常温30分間で菌数が1万分の1に減少。さらに水溶液を60～70度に加熱すると、約100万分の1にまで減少しました。実際の食品でも牡蠣殻カルシウムを加えると菌数が大幅に減少しました。O157以外にも、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、大腸菌など幅広い菌に対して効果があることがわかっています。（第40回日本食品工業学会、旧・農林水産省・食品総合研究所の発表 1993.3.27）



ボレイ（牡蠣）

「漢方成分 ケイヒ・ウイキョウ が、アニサキス症を予防」



【ケイヒ（桂皮）】樹皮から得られる芳香性の香辛料、別名シナモン、ニッキ。



【ウイキョウ（茴香）】セリ科植物の若い葉や種子。フェンネルとも呼ばれる。

東京都健康安全研究センターの研究で、ケイヒに含まれる「ケイヒアルデヒド」やウイキョウに含まれる「アネトール」などの成分が、寄生虫「アニサキス」に対して、強い運動抑制作用があることがわかっています。（東京都健康安全研究センター年報 2003.3.10）

漢方成分が食中毒・寄生虫予防に効果！

「漢方成分 ボレイ が、腸管出血性大腸菌 O157 を予防」

【ボレイ（牡蠣）】牡蠣の貝殻を焼成して粉碎した粉で、主成分は炭酸カルシウム。その他、リン酸塩、マグネシウム、アルミニウム、ケイ酸塩、酸化鉄などを含有。

旧農林水産省・食品総合研究所の研究では、「腸管出血性大腸菌・O157」に対して牡蠣を原料とする「牡蠣殻カルシウム」の0.2%水溶液に浸潤させると、常温30分間で菌数が1万分の1に減少。さらに水溶液を60～70度に加熱すると、約100万分の1にまで減少しました。実際の食品でも牡蠣殻カルシウムを加えると菌数が大幅に減少しました。O157以外にも、サルモネラ菌、黄色ブドウ球菌、大腸菌など幅広い菌に対して効果があることがわかっています。（第40回日本食品工業学会、旧・農林水産省・食品総合研究所の発表 1993.3.27）



ボレイ（牡蠣）

「漢方成分 ケイヒ・ウイキョウ が、アニサキス症を予防」



【ケイヒ（桂皮）】樹皮から得られる芳香性の香辛料、別名シナモン、ニッキ。



【ウイキョウ（茴香）】セリ科植物の若い葉や種子。フェンネルとも呼ばれる。

東京都健康安全研究センターの研究で、ケイヒに含まれる「ケイヒアルデヒド」やウイキョウに含まれる「アネトール」などの成分が、寄生虫「アニサキス」に対して、強い運動抑制作用があることがわかっています。（東京都健康安全研究センター年報 2003.3.10）

「食中毒対策」は梅雨になる前からが大切！

「漢方成分 オウバク・オウレン が、各種食中毒菌を抑制」



【オウレン（黄連）】キンポウゲ科植物の根茎で、抗菌・抗炎症作用を持つ「ベルベリン」を含む。【オウバク（黄柏）】ミカン科の落葉高木の樹皮でオウレンと同様に「ベルベリン」を含む。

オウレン（黄連）

ビブリオ菌やカンピロバクター菌、ブドウ球菌などの食中毒の原因として多い菌の殺菌や増殖を抑制。さらに赤痢菌やチフス菌などにも殺菌作用があることが確認されています。また、健胃整腸薬や下痢止めとして古くから様々な薬品に使われている成分です。



オウバク（黄柏）

感染性の胃腸炎による「下痢や嘔吐」についての注意点

「O157」や「ノロウイルス」など、感染性の細菌やウイルスに感染し発症すると、私たちの身体は腸を活発に動かし菌やウイルスを体外に排出しようとして下痢や嘔吐の症状が現れます。が、その時に下痢止めなどで下痢を止めてしまうと、菌やウイルスの排出が遅くなり逆に感染が長引くこともあるため、激しい下痢や嘔吐がある場合は医師または薬剤師に相談しましょう。

「食中毒対策」は梅雨になる前からが大切！

「漢方成分 オウバク・オウレン が、各種食中毒菌を抑制」



【オウレン（黄連）】キンポウゲ科植物の根茎で、抗菌・抗炎症作用を持つ「ベルベリン」を含む。【オウバク（黄柏）】ミカン科の落葉高木の樹皮でオウレンと同様に「ベルベリン」を含む。

オウレン（黄連）

ビブリオ菌やカンピロバクター菌、ブドウ球菌などの食中毒の原因として多い菌の殺菌や増殖を抑制。さらに赤痢菌やチフス菌などにも殺菌作用があることが確認されています。また、健胃整腸薬や下痢止めとして古くから様々な薬品に使われている成分です。



オウバク（黄柏）

感染性の胃腸炎による「下痢や嘔吐」についての注意点

「O157」や「ノロウイルス」など、感染性の細菌やウイルスに感染し発症すると、私たちの身体は腸を活発に動かし菌やウイルスを体外に排出しようとして下痢や嘔吐の症状が現れます。が、その時に下痢止めなどで下痢を止めてしまうと、菌やウイルスの排出が遅くなり逆に感染が長引くこともあるため、激しい下痢や嘔吐がある場合は医師または薬剤師に相談しましょう。